

平成 27 年 11 月 9 日

浜田市議会議長 原田 義則 様

議員名 澁谷 幹雄



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成 27 年 10 月 28 日 (水) ~ 10 月 30 日 (金)

2. 視察先及び研修テーマ

(1) 新潟県糸魚川市 糸魚川市役所
研修テーマ 「知音都市交流の取組み」について

(2) 長野県中野市 中野市役所
研修テーマ 「知音都市交流取組み」について

3. 参加者 足立 豪 岡野克俊 野藤 薫 上野 茂
布施賢司 岡本正友 道下文男 田畑敬二
平石 誠 西田清久 澁谷幹雄 牛尾博美
原田義則 計 13 名

4. 調査経費 ¥66,546 円
(内訳) バス代 43,846 円
宿泊費 22,400 円
入館料 300 円



5. 調査研究活動の概要

(1) 新潟県糸魚川市、長野県中野市

<視察に至った経緯>

浜田市（旧金城町）、新潟県糸魚川市、長野県中野市、長野県長野市の4市は、「カチューシャの唄」知音都市交流として交流を続けている。なぜこの4市が交流を始めたのかといえば、日本の新劇運動の先駆けの一人として知られる、島村抱月が浜田市（旧金城町）出身であったことから始まる。島村抱月は、1913年劇団・芸術座を結成し、トルストイの小説を基にした新劇「復活」の舞台が好評で全国各地で興行が行われた。その劇中歌「カチューシャの唄」は大ヒットとなり、日本初の歌謡曲として知られているところである。

その「カチューシャの唄」を歌ったのが、長野市出身の「松井須磨子」であり、その唄を作詞したのが「島村抱月」と新潟県糸魚川市出身の「相馬御風」であり、作曲は長野県中野市出身の「中山晋平」ということで、この4人の出身地が「カチューシャの唄」をご縁に都市交流を始めたということである。

そこで、市町村合併10周年を期に、交流をしている都市を訪問し、これまでの活動内容等の情報収集を実施し、今後の活動に関しての意見交換ができればとの思いで、今回の視察を計画したところである。

<視察内容>

○ 知音都市交流の歩み

年 月	内 容
平成元年 6月	(社)活性活性かなぎが「カチューシャの唄」知音都市交流”を提唱
平成2年	6月 長野市(市議会・行政関係者)が金城町を訪問
	7月 波佐文化協会等(金城町)が糸魚川市、中野市、長野市を訪問
	8月 第1回実務担当者会議を開催(会場/長野市)
	9月 三浦金城町長が糸魚川市、中野市、長野市を表敬訪問
	11月 金城町訪問団が「真田まつり」(長野市)に参加し、中野市、糸魚川市を訪問 長野市訪問団が「さざんか祭り」(金城町)を訪れ「抱月生誕120年特別展」等を見学
平成3年	8月 第2回実務担当者会議を開催(会場/金城町)
	9月 金城町訪問団が「真田まつり」(長野市)に参加
	10月 知音都市広報担当者会議を開催
	11月 中野市訪問団が「さざんか祭り」(金城町)に参加 金城町訪問団が長野市、中野市を訪問し神楽を公演
平成4年	3月 糸魚川青年会議所会員が「役場を舞台とした演劇公演」(金城町)を見学
	5月 第3回実務者・広報担当者等会議として拡充し開催(会場/糸魚川市)
	6月 『カチューシャの唄』知音都市ながの市民の会」設立(長野市)
	9月 金城町訪問団が「真田まつり」(長野市)に参加、中野市を訪問
	10月 金城町訪問団が糸魚川市本町通り商店街で芸能交流 ながの市民の会が「さざんか祭り」(金城町)に参加 金城町が「えびす祭り」(長野市松代町)で芸能交流
	平成5年
6月 金城町議会が中野市農業を視察	

	7月	第4回実務者・広報担当者等会議を開催(会場／中野市)
	9月	金城町から「真田まつり」(長野市)に参加
	10月	金城町が中野ライオンズクラブ 30周年記念事業で神楽上演
平成6年	5月	第5回実務者・広報担当者等会議を開催(会場／長野市)
	6月	糸魚川市と長野市が「神楽にほーける 30時間」(金城町)に参加
	9月	「カチューシャの唄」知音都市交流 5周年記念事業を開催(会場／長野市)
	11月	金城町から中野市制 40周年事業と「中野ふるさと祭り」に参加
平成7年	5月	相馬御風ふるさと記念切手発行(糸魚川市)
	6月	第6回実務者・広報担当者等会議を開催(会場／金城町)
	9月	「知音都市交流」共同パンフレット作成(15万部)
	11月	「金城ふるさと体験フェスティバル」(金城町)に長野市・糸魚川市・信州市民劇団が参加 金城町「サウンドファイブ夢の音会」が糸魚川市を訪問
平成8年	4月	金城町から中野市「ボンボコの湯」3周年記念事業で訪問(神楽上演)
	4月	糸魚川青年会議所が青年交流で金城町を訪問(金城町)
	9月	金城町から「真田まつり」(長野市)に参加
	11月	長野市松代町商工会議所が「さざんか祭り」(金城町)に参加
平成9年	5月	中野市市民交流訪問団が金城町を訪問
	7月	第7回実務者・広報担当者等会議を開催(会場／糸魚川市)
	9月	金城町から「真田まつり」(長野市)に参加
	10月	長野市制 100周年記念事業(長野市)の友好関係都市物産展に参加
	11月	「さざんか祭り」(金城町)で「知音都市交流展」を開催
平成10年	3月	「中野市市民都市交流会フレンズ」設立(中野市)
	4月	金城町青年訪問団が長野市・中野市・糸魚川市を訪問
	7月	第8回実務者・広報担当者等会議を開催(会場／中野市)
	9月	金城町から「真田まつり」(長野市)に参加
	11月	『「カチューシャの唄」知音都市交流展』を開催(森の公民館)
平成11年	7月	第9回実務者・広報担当者等会議を開催(会場／長野市)
	9月	「カチューシャの唄」知音都市交流 10周年記念事業を開催(会場／中野市)
	10月	金城町から「真田まつり」に参加、前夜祭「大正ロマン行列」参加
平成12年	5月	相馬御風没後 50年記念式典参加(糸魚川市) 『「カチューシャの唄」知音都市交流糸魚川市民の会』設立(糸魚川市)
	7月	第10回実務者・広報担当者等会議を開催(会場／金城町)
	10月	金城町が「真田まつり」(長野市)に参加 「たべごろ信州中野フェスタ」(中野市)に参加
平成13年	2月	金城町から交流環境調査事業として、長野市・中野市・糸魚川市を訪問
	7月	第11回実務者・広報担当者等会議を開催(会場／糸魚川市)
	10月	金城町が「真田まつり」(長野市)に参加
	11月	金城町「サウンドファイブ夢の音会」が糸魚川市を訪問
平成14年	5月	小国抱月生誕地顕彰の杜公園(金城町)完成式(知音都市から記念植樹)
	7月	第12回実務者・広報担当者等会議を開催(会場／中野市)
	10月	金城町が「真田まつり」(長野市)に参加 「たべごろ信州中野フェスタ」(中野市)に参加
	11月	糸魚川市・中野市合同訪問団が金城町を訪問
平成15年	7月	第13回実務者・広報担当者等会議を開催(会場／長野市) 金城町議会経済委員会が中野市農業を視察

	10月	「たべごろ信州中野フェスタ2003」(中野市)に参加 金城町から「真田十万石まつり」(長野市)に参加 糸魚川市議会産業厚生委員会が金城町を視察
	11月	中野市交流訪問団が糸魚川市を訪問
	12月	『カチューシャの唄』知音都市交流かなぎララ会』設立10周年記念行事開催
平成16年	4月	「松代城復元記念春まつり」(長野市)に参加
	5月	東京雑司ヶ谷霊園から抱月の遺骨が金城町に里帰り(納骨式参列)
	6月	第14回実務者・広報担当者等会議を開催(会場/金城町)
	8月	知音都市交流15周年記念事業開催(会場/糸魚川市)
	10月	「真田十万石まつり」(長野市)に参加
平成17年	7月	第15回実務者・広報担当者等会議を開催(会場/糸魚川市)
	10月	浜田市から「真田十万石まつり」に参加
平成18年	1月	「知音都市交流にかかる事務担当者会議」開催(会場/中野市)
	7月	第16回実務者・広報担当者等会議を開催(会場/中野市)
	10月	「真田十万石まつり」に参加(時代行列に知音都市一行として初参列)
	11月	中野市・糸魚川市市民団、中野市長が浜田市を訪問
平成19年	6月	第17回実務者・広報担当者等会議を開催(会場/長野市)
	10月	「真田十万石まつり」(長野市)に参加、宇津浜田市長が出陣式に参列
平成20年	7月	第18回実務者・広報担当者等会議を開催(会場/糸魚川市) 糸魚川市議会5名が浜田市を視察(知音都市交流について意見交換)
	10月	「真田十万石まつり」(長野市)に参加
平成21年	7月	知音都市交流20周年記念事業開催(会場/浜田市)
		第19回実務者・広報担当者等会議を開催(会場/浜田市)
	10月	知音都市交流シンボルマーク決定 「真田十万石まつり」(長野市)に参加
平成22年	7月	第20回実務者・広報担当者等会議を開催(会場/中野市)
	10月	「真田十万石まつり」(長野市)に参加
平成23年	7月	第21回実務者・広報担当者等会議を開催(会場/長野市) ※各都市に「 <u>情報通信員</u> 」設置
	10月	「真田十万石まつり」(長野市)に参加
平成24年	7月	第22回実務者・広報担当者等会議を開催(会場/浜田市) ※「 <u>知音都市交流ブログ</u> 」運用開始
	10月	「真田十万石まつり」(長野市)に参加
平成25年	5月	設立20周年を記念し、『カチューシャの唄』知音都市交流はまだ市民ララ会』に名称変更
	7月	第23回実務者・広報担当者等会議を開催(会場/糸魚川市)
	9月	『カチューシャの唄』知音都市交流かなぎララ会』設立20周年記念事業開催
平成26年	7月	知音都市交流25周年記念事業開催(会場/長野市)
		第24回実務者・広報担当者等会議を開催(会場/長野市)
	10月	「真田十万石まつり」(長野市)に参加
平成27年	7月	第25回実務者・広報担当者等会議を開催(会場/中野市)
	10月	「真田十万石まつり」(長野市)に参加

◆平成17年
1月 長野市に旧4町村
編入合併
3月 新「糸魚川市」誕生
4月 新「中野市」誕生
10月 新「浜田市」誕生

平成2年から毎年実務者・広報担当者会議を開催し、開催場所は4都市の持ち回りとしている。

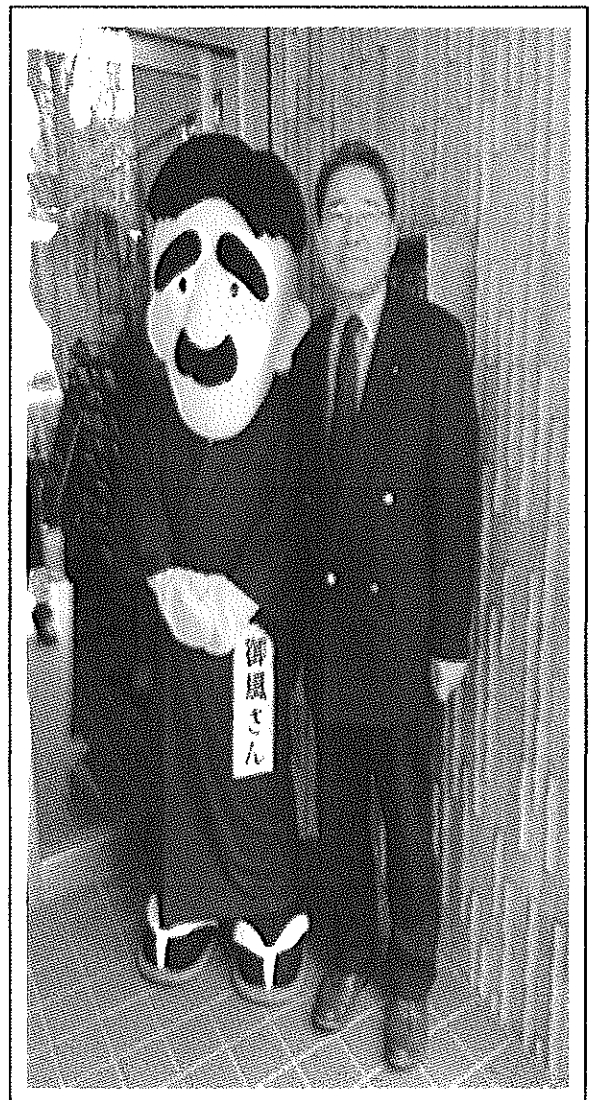
毎年10月に開催される、「真田十万石まつり」において、4年周期で大名行列に

参加し、各都市はそれをサポートしている。まつり終了後は、4都市で交流会を実施し、その場には、真田家当主も毎回参加されている。

【糸魚川市の取組】

知音都市交流において、平成2年に4都市の実務・広報担当者会議を皮切りにそれぞれの交流が活発化した。平成4年には青年会議所が浜田市（旧金城町）を訪問し演劇を見学するなど交流を深められた。平成12年5月には「カチューシャの唄」知音都市交流市民の会が設立され、市民の中にも交流の輪が広がった。特に、中野市や長野市とは距離が近いこともあり、それぞれの都市で開催される、祭やイベント等に参加している。

都市交流のきっかけとなった、相馬御風については、市役所に隣接した場所に「歴史民俗資料館(相馬御風記念館)」を開館しており、御風の蔵書や資料を多く展示し市民や観光客に紹介している。



【中野市の取組】

中野市においては、平成10年3月「中野市市民都市交流会フレンズ」が設立され、交流の中心となっている。この会の活動として、

- ・カチューシャの唄に関する先人の研究
- ・4都市交流の計画、地域活性化の研究
- ・交流情報の受発信と広報
- ・4都市交流団体としての事業実施
- ・会員相互の友好連携 が挙げられる。

現在、特に力を入れていることは、

- ・組織育成事業(会員拡大)
- ・4都市市民交流のための情報発信のためのホームページやブログの開設と運用
- ・先人を知る学習活動 ということである。

今後の活動の方向性として、交流4都市の情報発信や、各都市の活性化や町づくり推進への寄与としている。

都市交流のきっかけとなった、中山晋平については、晋平の生家近くに中山晋平記念館が開館しており、館内には、生前の写真や作品集が展示されている。また、彼の作品が視聴できるコーナーやビデオコーナーも設けられており、より親しみやすくなっていた。



〈所感〉

「島村抱月」の名前を文学者として初めて意識したのは、20歳の頃である。毎日新聞の「文芸時評」で江藤淳が、岩町功先生の「評伝島村抱月」を激賞して、「石見の畏友岩町功君の……」というその書評を友人が何度も繰り返して読み上げ、「江藤淳に畏友と評価される岩町先生はたいしたものだ」と呟いていたのを、私は40年経った今でも鮮やかに思い出することができる。

帰郷した折に、新町の吉田屋書店で、その柏村印刷から自費出版された立派な装丁の「評伝島村抱月」を買って求めた。この労作は、抱月の早稲田大学入学後の華やかな活躍よりも、前半生の小国村時代の佐々山家の苦難の生活から記述されていて、飲んだくれの父親や、聡明な母親、浜田地震、浜田に出て裁判所の書記官時代の下宿先など、足で書いた原稿という趣があるもので、演劇人としての岩町先生の抱月への敬愛が書かせたものであろうと推測された。

ともかくにも、カチューシャについて、私の知識は極めて薄い。

トルストイの3大長編小説の中で、私は「復活」は読んでいないのだ。「戦争と平和」のアンドレイ侯爵とナターシャ、「幸福な家庭の形は似通っているが…」という有名な書き出しで始まる「アンナ・カレーニナ」には、それなりの感動があったが、「復活」は手にしなかった。島尾敏雄は「死の棘」の中で丁寧に「復活」を読み込んでいるが、それは島尾がクリスチャンだからだと思う。青年貴族のエゴイズムに弄ばれ不幸に陥るカチューシャとその自分の行為を反省し、魂の救済の物語として、イエスの復活をなぞらえて、作者自身を彷彿させるその青年貴族の物語を、吉行淳之介は「不潔で読むに値しない作品」と罵倒し、私は吉行の眼力をかなり評価していたので、おそらくその彼の評価に影響を受けて読むとしなかったのだと思う。

だが、今、私は、今回「カチューシャの唄」や「ララ会」の活動、糸魚川市や中野市、松代市の都市間交流に熱心な皆さんとの出会いを通して、まず、トルストイの「復活」を読んでみなければなるまい、という気になっている。これは、私にすれば、知音交流への取組みの一步になりそうな気がするのだ。少なくとも、カチューシャへの理解を深めなければなるまいと思えるのである。

また、松代市での交流会で、松代藩主の本多忠光は、浜田藩の藩主に転封されたのだ、という話があった。松阪市と言い、松代市と言い、歴史の縁はたくさんあるようで、知らないのは私だけかも知れない。

いずれにしろ、島村抱月、松井須磨子、相馬御風、中山晋平の4人が醸し出す「縁」による都市間交流である。一期一会の精神で行くなら、先人の功績を伝承し、21世紀を生きる我々が、次の世代に発展継承しなければならない、責任がある。松阪市もだが、それぞれ友好協定が結べる形になるよう、努力したいと感じたところだ。

先日、その岩町功先生から、電話をもらった。

私の20枚の短い小説を目に止めてもらい、今自分は「郷土石見」の編集責任者なのだが、あなたの作品を転載させて欲しいという内容だった。「原稿料を払う余裕はないけれど……」と岩町先生に言われて、「それは光栄です、いくらでも使ってください」と、私は応えた。

これは、私に訪れた、「カチューシャの縁かも知れない」、と想った次第である。